

# NEWSLETTER



大阪女学院大学 大阪女学院短期大学

教 員 養 成 セ ン タ ー

● 巻頭エッセイ 絆 ..... 1	● 第13回勉強会 ..... 3
● 第14回「英語の教え方教室」案内 ..... 1	● 授業の玉手箱「Time Management」..... 4
● 「英語の教え方教室」勉強会報告 ..... 2	● 書籍紹介『教師花伝書』..... 4
● 第11回勉強会、第12回勉強会 ..... 2	● 教員免許状更新講習3案内..... 4

## 巻頭エッセイ

# 絆

夫 明美

2012年を迎えました。昨年のこの時期も同じタイトルで巻頭言を作成しておりましたが、タイトルをつけるにあたり、昨年の3月11日に発生した東日本大震災のことを避けては通れません。被災地の皆さんは現在も「これまでの当たり前の生活」とは異なった生活を送られています。被災地の方々のコメントや震災直後から続く支援体制から、日々の生活が人と人の絆や人と生まれ育った土地との絆に大きく支えられていることを再認識します。かつての日々の生活を取り戻そうとするなかで、学校が果たす役割について、本学の学生たちと議論した内容をご紹介します。

本学では教職を志望する学生を対象に、センター所属の教員が「教職サークル」を担当しています。週に一度集まって、「英語教育法」や「時事問題」等について各グループが活動を継続しています。私は2011年度前期に7人の学生とグループを作り、「新聞記事にみられる学校問題」について活動を継続しました。学生が自分のアンテナに触れた新聞記事を持ち合い、議論したいポイントを参加者全員にプリントを配布で指示した上で、全員で議論を進めるスタイルです。グループの一人の学生が選んだのが、6月の朝日新聞の記事です。「間仕切り教室不便に学ぶ」というタイトルで、岩手県大槌北小学校が体育館をパネルで区切った空間で授業を展開していることを報告しています。

あげられている懸念事項は、

- パネルの仕切りだけなので、音が問題になる
  - それに伴って「音読」活動に遠慮をしてしまう
  - 騒がしいなかで教えたことが身につくのか心配である
- などです。

その「あたりまえとは違う授業形態」から生徒が学んだことは

- 声が邪魔にならないように黒板の位置をかえる
- 話し言葉のボリュームをコントロールできるように「声のものさし」を作る
- 声だけでなく、口を大きく動かして、言っている内容を伝えるなどがあげられていました。

記事中の表現を借りると、「静けさって当たり前だと思ってたけど、ありがたかったんだね、これまでの私たちは静かな学校が「共有前提」であったと思います。まず、その点を認識することから私たちの

議論はスタートしました。次に、英語という教科の特性、つまり「発音指導では音を通さないと授業が成立しにくい」状況になったときに、どのような工夫が必要か？について意見を出し合いました。掲示物などでフォローしながら、声のボリュームをコントロールするというアイデアが出ました。また、教室や教員の確保が通常よりも難しい状況では、社会科と連携して「世界で使われている英語の」という課題や家庭科と連携して「料理スタイル、食事形式の紹介」という課題で授業を展開できる可能性について議論が展開しました。

彼女らが実際に教壇に立ったときに、困難の中で教育を継続する意義とその方法についての議論から得た授業・学校運営のアイデアを一步ずつ実践してくれることを願います。

## 第14回「英語の教え方教室」勉強会(案内)

平成24年2月18日(土)

「GUEP (Global Understanding through English Presentation) の授業紹介と工夫」

—兵庫県立国際高等学校での特色ある英語授業の取り組み—  
兵庫県立国際高等学校 真田 弘和 教諭

SELHi 研究開発校であった兵庫県立国際高等学校は、コミュニケーション能力と多文化共生の心を総合的に身につける指導方法と評価方法の研究開発を中心課題として、英語教育のプログラムの開発に取り組んでこられた。「DDD」(Discussion Debate Drama) という独自の手法を取り入れ、語学力の養成とあわせて自己表現力や創造力の育成をめざすとともに、生徒同士の交流と相互啓発を図ることに今でも取り組んでおられる。



今回、真田先生には、学校設定科目として担当されているGUEP (Global Understanding through English Presentation) の授業の取り組みの紹介と工夫についてお話いただきます。さまざまな学校の教員の一人一人が、生徒の英語力向上のために日々真摯に授業実践に取り組んでおられます。その取り組みへの情熱と工夫を共有しませんか。皆様のお越しをお待ちしています。



「英語の教え方教室」勉強会

報告：中井 弘一

- 第11回：日本語感覚からネイティブ感覚へ —英語のおもしろさを—
- 第12回：PISA 型読解力を育む英語授業とは —全国初教育センター附属研究校での取り組み—
- 第13回：なるほどと思う授業の取り組み紹介 —授業研究会や公開授業での実践発表で「いいなあ」と思った活動やその考え方—

第11回「英語の教え方教室」勉強会  
10月15日(土)

「日本語感覚からネイティブ感覚へ —英語のおもしろさを—」  
大阪女学院大学 中井 弘一

来年度本学で実施する教職フィールドワーク英国の計画内容をまず紹介した。このフィールドワークは三つの研究活動（授業観察研究・街角観察研究・教材開発研究）を行うことを目的としている。その一つとしての街角観察では、「What's this?」「What do you think this is?」「What are they doing?」「Why?」と目の前にある光景を問いかける気づきを大切に、文化理解・不思議理解を尋ねる教材づくりの視点を紹介した。



授業観察研究として、今秋下見訪問したYorkにあるManor Christ of England Schoolでの授業を紹介した。数学では、Ben and Lucy have the same number of sweets. Ben started with 3 packets of sweets and ate 11 sweets. Lucy started with 2 packets of sweets and ate 3 sweets. How many sweets are in one packet? などの問題を、理科の授業では、At her birthday garden party, Chloe's dad cooked beef burgers on a barbecue for the guests. Everybody was very hungry and Chloe's dad cooked the burgers quickly. They were burn on the outside. After a couple of mouthfuls, a few guests complained that their burgers were cold in the middle, so Chloe's dad put them back on the barbecue to heat them through. A few hours later, some of the guests had bad stomach pains and a few vomited. The next day, many of the guests were sick and diarrhea.

Task: Use the information above to explain why the guests had food poisoning and the body's response to the infection.  
You can do this either by:

- ・ drawing a cartoon strip to show the stages of infection
- ・ writing an exciting story to show how the infection takes hold and is defeated. などの課題を示し、Manor Schoolの授業方法を紹介した。そのあと、「日本語感覚からネイティブ感覚へ —英語のおもしろさを—」に関して話した。

教員駆け出し時代、石橋幸太郎の「クエスチョン・ボックス」や井上義昌の『英米語用法辞典』（初版昭和35年、縮刷第二版一昭和47年一を所有）などで英語の語法や文法を必死に調べて、授業に臨んだ覚えがある。それでも、わかりやすく説明することからはほど遠い授業であったのではないかと今でも反省している。

最近、「ネイティブ感覚の〜」と名の付く英語の語法の参考書や読み物がたくさん出版されていて、調べたりするのも便利な時代になった。しかしながら、日本語感覚で英文を考える生徒や学生は絶えず、たとえば、「その本を買うのを忘れた」を「I forgot buying the book.」としたりする。日本語感覚で英語表現を考えるプロセスを解体するには英語感覚を身につけることである。語彙や文法をその「形 form」と「意味 meaning」だけを教えることに終始していると、結果的に日本語をそれに当てはめた英語表現を生み出すことになる。そこに、「いつ・なぜその表現が使われるのか Use・function」という用法の意味合いを教えないと英語表現は身につかない。この use の概念が「ネイティブ感覚」である。私の英国滞在での失敗英語を交えながら、いくつかの例を話した。それらを通して、英語のおもしろさを再認識した。



第12回「英語の教え方教室」勉強会  
11月26日(土)

「PISA 型読解力を育む英語授業とは —全国初教育センター附属研究校での取り組み—」  
大阪府教育センター附属高等学校 森下 信明 教諭

- PISA 型読解力とは 4技能+考える力=5技能と捉え、4技能の統合とPISA 型学力を育成するため、
- ・ 授業は基本的に英語で行う
  - ・ 語彙・文法・文型の指導手順は基本的に Listening ⇒ Speaking ⇒ Reading ⇒ Writing
  - ・ 教科書の内容を扱う際、4技能を意識
  - ・ 実際の言語使用に基づく、やりがいのある活動
  - ・ スピーチ、ディスカッション、ディベート等の4技能を統合的に使う活動を取り入れる
  - ・ 到達目標を4技能別に設定
  - ・ Listening を中心に ⇒ 口頭導入、CD を聴き、内容理解
  - ・ Reading を中心に ⇒ 推測しながら読む(空所補充) ⇒ 内容理解(True or False, Yes/No questions, wh-questions)
  - ・ Speaking を中心に ⇒ 音読練習 ⇒ Reproduction (難しい場合は Key word を！)
  - ・ Writing を中心に ⇒ サマリー作成



を指導構想として取り組まれていると紹介された。また、教育センターと連携して実施されたS-T授業分析について説明をいただいた。S-T授業分析とは授業中に出現する児童・生徒〔S〕の行動（言語活動、非言語活動）と教師〔T〕の行動（言語活動、非言語活動）の二つのカテゴリーだけに限定して、授業中の児童・生徒と教師の行動関係がどのように現れているかを分析するものである。これにより、生徒主体の授業を進めるよう省察することが大切であると強調された。

森下教諭の前半報告のあと、中井がPISA 型読解力について、補足説明を行った。PISA 調査における読解力の定義・ねらいは、「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」とされている。PISA 調査の読解力の問題には次のような特徴がある。まず、読むテキストには、「連続型テキスト」と呼ばれている文章で表されたもの（物語、解説、記録など）だけではなく、「非連続型テキスト」と呼ばれているデータを視覚的に表現したもの（図、地図、グラフなど）も含まれている。加えて、教育的内容や職業的内容、公的な文書や私的な文書など、テキストが作成される用途、状況にも配慮されるなど、テキストの内容だけでなく、その構造・形式や表現法も、評価すべき対象となっている。等、説明した。

後半は森下教諭に先日行われた公開授業をビデオで紹介してもらって、参加者で討論した。

討論のポイント：

○オーラル・イントロダクションのあり方

- ・ 非連続のテキストとしての写真の提示も必要であるが、学校数や地図上の位置、地図上の位置から考えられる特性などを含む方が本文内容の理解にも役立つのではないだろうか。
- ・ 簡単な英語での説明であったので、生徒にそれをくり返させてみてはどうか。

○プレゼンソフトを使った画面表示による新種単語の導入

- ・ 単語一つずつの提示でなく、もう少しチャンク・フレーズ的な塊で提示することはどうか。
- ・ 生徒同士で発音し意味を確認させるようなシートづくりに発展させてみてはどうか。

○音読活動

- ・ 配付された日本語訳付きの細かなセンスグループに分けた





英文の音読指導は効果があるだろうか。

- ・日本語訳を配り、音読活動を行うだけで英語を理解する力は付くか。
- Output 活動 “We will ~” の一文完成
- ・活動がやや単純なので、Because ~を加えた文を書かせるくらいのことをしてはどうか。
  - ・6人のグループで一文の作成とするのではなく、限りなく作成させて発表させ、その中でどれがいかに話し合うことを入れてはどうか。
  - ・グループメンバーの役割を明確にしてみようか。
  - ・この活動と本文との関わりはどうか。などを話し合った。

**第12回「英語の教え方教室」勉強会**  
12月10日(土)

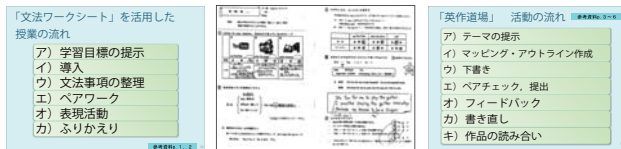
「なるほどと思う授業の取り組み紹介」  
大阪女学院大学 中井 弘一

本年10月23日徳島市で行われた第39回四国英語教育研究会の分科会③において、徳島県鳴門市第一中学校の目下美香教諭が実践発表された「学習意欲を高める指導法」を最初に紹介した。本発表に関しては、中井が昨年主催の徳島英語教育研究会の副会長から依頼を受け、この分科会の指導助言の担当となり、発表者二人と連絡を取りながら当日の発表へとつなげる協力を任された。



日下教諭

日下教諭とは昨年のクリスマスに最初のメール連絡をいただいて以来、事前アンケートのことから、発表内容の設定などを皮切りに何度もメールで相談を受けてきた。そのようなやりとりがあったので、発表への取り組みがよくわかっていること、発表された実践内容を是非とも本学勉強会でも紹介したいと考え、事前に本人の了解を得て、そのまま披露するとともに、分科会当日指導助言の時間制限がきつく充分に話せなかった私のコメントのポイントを加えて紹介した。



日下教諭の発表要項(研究大会発表要項冊子より抜粋)は、

1. はじめに

どの生徒も授業を「わかりたい」、「楽しく受けたい」という強い願いを持っている。平成12~13年度に実施された国立教育政策研究所による調査結果から、中学生の学習意欲を高めるには、授業のわかりやすさやおもしろさが重要な要素であるということが読み取れる。

このことから、生徒一人ひとりが学習にストレスを感じない安心できる環境の中で、生徒の気づきや考えを引き出しながら、生徒が「よくわかる」「楽しい」と感じられるような授業を展開し、生徒の学習意欲を高めたいと考えた。そして、生徒の学習ニーズや願いを把握するためにアンケート調査を行った。その上で、それらに応える学習活動を工夫する授業改善に取り組んだ。

2. 学習活動の工夫

(1) 「分かる」「使えるようになる」文法指導の工夫:「文法ワークシート」の作成と活用

- ・クイズ形式のオーラルインタラクションで新出文法の導入をする。聞き取りの前に話の内容を予測させることで、興味関心や目的を持ってリスニング活動に取り組ませる。
- ・ペアワークの中で言語材料を繰り返し使わせ、新出文法表現に慣れさせる。
- ・自己表現コーナーを設け、学習事項を用いて表現させることで達成感を持たせる。

(2) 既習事項を活用した表現活動の工夫:「英作道場」

- 既習文法事項を活用して自分の思いや考えを英文で書いて表現し、できあがったものを互いに読み合う帯活
- ・「何を書くか」→「どんな文で書くか」→「文と文をどんな順序でどうつなげて書くか」を構想からつなぎ言葉の選択までスモール・ステップで学ばせる。
- ・書くことに対して難しいと躊躇したりストレスを感じたりすることを避けるために、作文に使える既習文法事項をまとめた使える英語表

現ヒント集を配布・提示する。

- ・生徒が互いの作品を読んで感想や意見を書き合う自己表現を基にしたコミュニケーションを通して伝え合う楽しさを体験させ、さらなる表現意欲へとつなげる。



3. まとめ

- ・授業中にペア活動や表現活動に積極的に取り組む姿が見られるようになった。
- ・英語をもっと勉強したいと感じている生徒たちが増え、学習意欲が向上しつつある。
- ・英語で書く力にも変化が見られ、例や理由を添えて詳しく説明したり、事実だけではなく自分の気持ちや考えも書いたりできるようになった。
- ・学習事項の定着やスローラーナーへの適切な支援という面での課題もある。

紹介の中で以下の要点を整理し話し合った。

○事前のアンケートにより生徒のアセスメントを行い生徒の実態をより明確に知る

- ・事前に生徒のニーズを把握し、指導内容方法を設定すること。平成12~13年度実施「学習意欲に関する調査研究」国立教育政策研究所学習意欲研究会から、中学生が勉強を「やる気になるとき」ベスト5の2大要因として「授業がよく分かるとき」「授業がおもしろいとき」90%以上をまず視野に入れている。
- ・事前アンケートで、「英語の学習は好き」が42%、「英語を勉強することは大切だ」66%、「もっと英語を勉強したい」が50%、そして英語学習に期待することは、「文法や英語の使い方がわかりやすい授業」81%、「英語を読んで理解できるようになりたい」が69%、「英語で表現できるようになりたい」54%を参考に検討している。

○的を絞って大きく二つの対策(文法ワークシート、英作道場)を検討し実践する

- ・その際、生徒のニーズを踏まえ、授業者が生徒に身につけさせたい目標を具体的に設定する。対策としてのタスク活動を軸に指導のプロセスとしての学習の回路を明確にする。また、何度も使わせて使い方を学ばせることを「繰り返しの学習:分かるメカニズム」としている。
- ・学習目標の提示、導入、文法事項の整理、ペアワーク、表現活動、ふりかえりを学習回路とし、学習と同時に進行的な成果の自己評価を図っている。目標の明確化は、チャレンジングな課題が有効である。学習への意志の形成と行動の開始を促す。その際、目標の多様性として適切性・具体性・近接性を図ることが大切である。導入においては、実物・絵・写真を見せる、クイズ形式、内容の予測(聞く目的)、メモをとるなど様々な活動を行うことで、学習体験の質に工夫を持たせている。文法事項整理では、板書でポイントを明示し、ペアでその用法などを気づかせる方法をとっている。気づき → 整理 → 自分の文の見直しのプロセスを大切にしていることは、これからの文法指導に必要なことである。

このあと、兵庫県の尼崎小田高校の授業実践での意欲的な試みとして、付箋の授業コメントを分類整理(KJ法)する授業研究方法を紹介した。全授業参加者が気づいたことを付箋に次々に書き込み、授業終了時に提出、それらのコメントを分類し、項目別に生徒と教員の横軸に、プラス点・マイナス点を縦軸に整理して並べる。この読み取りやすく効果的な評価を教科会で話し合っているとのこと、素晴らしい試みである。



また、兵庫県では、学校対抗の英語ディベート活動が盛んである。山陰の高校から山陽の高校まで併せて21校が集って大会を開いている。新学習指導要領は、ディスカッションやディベートの活用を求めている。学校間で切磋琢磨することは、モチベーションを高めるだけでなく、英語力の向上につながる。勉強会では実際に指導しておられる小林教諭にも黒板ディベートによる論点確認活動についてお話し願った。論理構成を考え直す指導は有効である。今回は盛りだくさんな内容で、紹介することに精一杯であった。

# 授業の玉手箱

## Time Management

中垣 芳隆

先日、かつて勤務した高等学校の教え子達の同窓会に出席した時に、「いろんな先生の授業の中で、これはやめて欲しかったということは何。」と尋ねてみました。

板書の乱雑さかな、声の大きさかな、厳しすぎるかな、宿題の多さかな、と勝手に推測していたのですが、あにはからんや、一番多かった答えは「ベルが鳴ったらすぐ授業をやめて欲しかった」というものでした。

「最後にここは大事だから」とか、時間が足りずにチャイムと合奏するかのようにテキストのテープを流したことが記憶に蘇りますが、かつての同僚を思い起こすと、熱心な先生ほど、この傾向があったように思われます。

教案をベースに授業を進めていた時代にはそうではなかったものが、経験を積むにつれて、この点で自分に甘くなったようです。その一方で、生徒には時間の有効活用の大事さを講釈していました。そういえば本学の学生向けの Study Skills & Tips at OJC の中でも Time Management として2ページがさがされています。

教員と生徒の関係の基本は respect と trust とよくいわれますが、一時間の中で review に始まり、次回の予告、宿題にいたるまで、実は盛りだくさんの内容を過不足なく実行することの積み重ねが、これもまた trust を醸成する助けとなるようです。それ相応の準備と、授業中における緊張感が教える側に求められますが、授業が生徒との真剣勝負の場である以上、自戒もこめて心がけたいところです。

## 書籍紹介

### 『教師花伝書』

佐藤学 (2009) 小学館 1260 円 210 ページ



大学の授業で学生と『教育の方法』(佐藤学 (2010) 左右社) を読んだ。変貌する学校教育の現実とその変化を促進している理論の概要を網羅した教育方法学の同書では、最新の知識と主要な論点を取り込みながら「学びの共同体」へのパラダイムシフトが明確に示されていた。読みながら、何かしら“物静かな”気持ちになったのは不思議な感覚だった。

前置きが長くなったが、『教師花伝書』は同著者によるものである。「学びの協働体」としての授業はどのように実践されるのか、その中で教師は専門家としてどのように成長していけばいいのか。本書では、創造的授業技法を直感的に、あるいは周到な準備によって実践している著者が出会った教師たちの実践例を垣間見ることができる。著者はしかし、カリスマ教師としてこれらの教師達を描いてはいない。教師には職人としての「技 (craft)」と専門家としての「専門的見識」が必要であるとし、「技」は模倣によって伝承されるが、「専門的見識」は経験と理論の省察によって形成されるとしている。いかなる教師も学びの専門家になり、成長し続けなければならないと説いている。同書はまた、教師が共に成長していける学校の「同僚性」の大切さについても述べている。

豊穡な学び合いが実現している授業は“物静か”で、生徒たちが夢中になり、どの教師も声を張り上げることなく“物静か”に丁寧に生徒と対話しているという。日々忙しい授業の合間に、ゆったりと“物静か”に本書を読めば、次の授業への手がかりが何か見つかるかもしれない。

(東條 加寿子)

## 大阪女学院大学「教員免許状更新講習3」 平成 23 年度講習

平成 24 年 3 月 10 日 (土) 9 : 10 ~ 16 : 40

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate>

### ・教材開発に役立つジャンルの考え方

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

### ・教材開発の方法 - 教材を見る視点、使う視点、開発する工夫 -

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

## ■ 講座のねらい

英語の授業ではさまざまな教材が使われる。「教材開発に役立つジャンルの考え方」では、英語教材のジャンルに注目して、それぞれのジャンルに固有な言語的特徴をどのように見つけて教材化するかを、事例を挙げながら考える。目的や場面に適した言語使用を実践するためには、語彙や文法を取り上げるだけでなく、ジャンルに特徴的な情報の伝え方 (表現意図の構造) に注目することが大切であろう。ミクロ、マクロの観点から教材を捉え、「使える英語」「通じる英語」につながる教材開発の一助としたい。

「教材開発の方法」では、学ぶための「学習材」と教えるための「教育材」の観点から、最初に教材研究として教材の位置づけや教材の読み込みを含む「教材を見る視点」を考える。次に、学習者である生徒に応じた教材の使用の実際から、教材の改作を含め学習目的に合った教材作成を考える「教材を使う視点」を検討する。さらに、そうした視点を基に、ワークシートや補助教材作成のデザインなど「教材開発の工夫」をベア、グループで実際に text-based material (教科書)・task-based material (ロールプレイ等)・realia (実物教材) などを使って考える。最後に、講習を振り返りくつろいでいただくため、投げ込み教材としてマザーグースの世界を紹介し、楽しんでもらう。

## ■ 定員・対象

中学校英語科教員・高等学校英語科教員 計 30 名  
(定員を超える場合は申し込み先着順にて締め切り)

## ■ 受講方法

### ○ 受講申し込み受付

平成 24 年 1 月 16 日 (月) より 2 月 24 日 (金) までに大阪女学院大学 教員養成センター「教員免許状更新講習」担当へお申し込みください。教員養成センターメールアドレス (ttc@wilmina.ac.jp) 宛に、1) お名前 (漢字・ふりがな) 2) メールアドレス 3) ご連絡先電話番号 4) ご勤務先・所属等 5) 2012 年 3 月 10 日講習希望と明記してメールを送信ください。一週間以内に本学より申込受付確認メールとともに受講申請手続きについてご案内いたします。

○ 受講料 3,000 円 (所定の口座へ振り込み)

### ○ 受講方法

受講当日に、こちらから発送する受講確認書と身分証明書等本人確認できるものをお持ちください。



## 編集後記

東日本大震災後にしみじみ思うこと - 「私はあなたであり、あなたは私である」他の人のことを自分のこととして考えることが大切である。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学  
教員養成センター Teacher-training Center

540-0004 大阪市中央区玉造 2 丁目 26 番 54 号  
Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373  
Homepage <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>  
e-mail: ttc@wilmina.ac.jp